

第 91 回 IADR Council Meeting 報告

JADR 会長 高橋信博

(東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔生化学分野)

IADR 会期の前日の 3 月 19 日午後 1 時より、定例の Council Meeting がシアトルにて開催されました。Council Meeting は、IADR 各 Division および各 Research Group の代表が一堂に会し、IADR 執行部が作成した原案に基づき、IADR の運営等について議論・承認する場であり、JADR 代表として、高田隆副会長、山崎和久会計理事とともに出席いたしました。このところ数年は、日本歯科医学会からもオブザーバーとして参加いただいております。

前回の議事録の承認に続いて、2013 年度 IADR Vice-President として Dr. Marc Heft (University of Florida, USA) が承認されました。これにより、安孫子宜光先生は Vice President から President-elect となり、いよいよ来年の IADR 南アフリカ共和国・ケープタウン大会では President に就任されることとなります。また、新たに 2013 年度 IADR Vice-President 候補者として次の 3 名が承認されました（アルファベット順）。

- ・ Noemi Bordoni, University of Buenos Aires, Argentina
- ・ Grayson (Bill) Marshall, University of California, San Francisco, USA
- ・ Jukka Meurman, University of Helsinki, Finland

新興国の Division 設立も活発で、新たに Indian Division と Iraqi Division の設立申請が承認されました。さらに、学問領域の拡大に伴って、新たな Research Group として Stem Cell Biology Scientific Group の設立申請を承認しております。学生の国際的ネットワーキングを目指す Student Training and Research-STAR Network の設立も承認いたしました。

IADR の学術誌である Journal of Dental Research (JDR) の 2012 年度の状況が報告され、JDR が Dentistry for Eigenfactor Score 0.2171 で 81 誌中第 1 位であること、2-year Impact Factor は 3.486 で第 2 位であること、投稿数は 1200 を超え、採択率は約 10% であること等が示されています。

IADR の 2012 年度の決算および 2013 年度の予算について説明があり、原案通り承認されました。なお、IADR 会費は、予定通り漸次値上げを行うことが既に決定しており、日本の正会員の会費は 2013 年 \$135、2014 年 \$140、2015 年 \$145

となる予定です。極端な円高は日本経済によろしくないのですが、急速な円安は会員負担の増加に繋がり難しいところです。

今回の大きな決定の一つは、これまでの会員の種別に新たに Affiliate Membership が加わったことです。Affiliate Member とは「A person who is not primarily involved in research but has an interest in keeping up with the latest research, e.g. a practicing healthcare professional, a dental professional involved in PBRNs (practice based research networks) or evidence-based dentistry, patient advocates, or healthcare educators with primary teaching responsibility. Affiliate members receive limited benefits and are not eligible to vote or hold office in the Association.」と規定されております。本会員設置の目的は、臨床等で研究の現場から離れた歯学関係者が継続して IADR 会員となり、IADR 活動を通して最新の研究に触れる機会にしてみらうとともに、IADR 会員数の維持に貢献してもらうことにあります。

2018 年度の IADR General Session の開催地はロンドン（英国）とすることが承認され、また、2013 年度 IADR Distinguished Scientist Awards および IADR Unilever Hatton Divisional Awards 受賞者が報告され、議事はほぼ終了となりましたが、この後、恒例の Interactive Council Feedback Session が行われました。これは出席者全員が小グループに分かれて IADR の運営等について討議し、その場で纏めて発表するというワークショップです。今回の課題は IADR が行いうる若手研究者への支援方法等についてでした。私のグループには南米やヨーロッパの代表が入っており、それぞれ国・地域の事情が異なるものの、共通した若手研究者支援として、如何に研究指導やメンターシップを提供するかが議論されました。研究の実力を付けるためには時間と労力が必要ですが、現在の効率重視のスピード化された時代において、地道に研究力を磨くことが容易ではないことを改めて実感した次第です。

約 4 時間にわたる会議が終了すると既に夕暮れ、あいにくの雨のため冷え込んできました。しかし、Council Meeting の後には Council Dinner が用意されており、今回はシアトルの歴史的シンボルである Space Needle に移動しての会食となりました。座席は自由であり、また会も半ばとなると皆が自由に席を移動するため、各国からの代表者と、お酒の勢いを借りながら懇親を深めることが可能です。この Council Meeting で新たに知り合った方々と、さまざまな場所、機会で再会することを楽しみにしています。